

# 百景図の 絵を解く

# 津和野の歴史文化 5つの手がかり



1

津和野藩も潤した鉱山

日本本多のことを「田舎子」、江戸本多を「里深」に略す。川の西の「大名領地」を所有していました。笛ヶ谷や日原は中世以来 良質の銀や銅を産出し、江戸の山師として活躍し、津和野藩に対し財政面で支援を行なうとともに、地域文化へも少なからず影響を与えていました。



日根の庭園／雨山而して其。各領主の隸官に渡わたった朝氏の邸宅。秋は紅葉の名所です。

2

山の恵み、川の恵み

した。鉄作りには大量の薪と水が不可欠で、砂鉄を運び込んで、玉鋼を作っていました。また人々は米作の分野から、炭を焼き狩をしていました。木からお椀などを手て生活をしていました。

明治以降、原山に宮林署が置かれ、林業や水力発電所で、豊かな森林資源と良好な水質を守る努力は今も継続されています。



わさび目／高津川の支流で栽培されるワサビ。収穫で育ったワサビとは苦味が強く、特有の香りがします。

3

先人の汗する姿が見えてくる

山が多くの生産者をもつた「山あいのき」で、平地や斜面、野を才なく育てて、棚田に残してきました。運営にはコウソヤミツタを補え、それを原料として和紙を生産。年貢米の代わりに和紙を納めることも薄に許されていました。また、ハゼを栽培し、その実を原料として和紙を生産。カイコをわらが子のように育てて、糸も筋も、家族の暮らしが少しでも楽になるよう。野の文化は先人の働き姿と心を伝えてくれます。



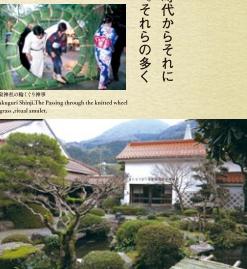
和紙入紙/京都野呂山和紙の生産を保護しました。  
Japanese paper dolls, Japanese paper

四

受け継がれてきた

城下町・津和野には、神社や寺が多く、江戸時代からそれにまつわるさまざまな物語が交わされてきました。それらの多くは現在の人々によつて受け継がれています。

特に津和野大原の北のエリアには、伝統的な建築物が数多く残され、今も多くの人が店舗や居宅として使われています。街の中で生きていくための知恵は、現代の日常の暮らしの中に息づいています。



植物の薬理(分類の本)

5

人々や物資を運んだ  
街道と舟運

津和野藩には、浜田藩領をはさんで飛地がありました。城下町とそれらの飛地を結ぶ重要な道が、藩主も往来した「津和野奥筋街道」。その道は日本橋の松原から川を渡って飛地へと伸びていました。水路は、奥筋街道と高津川の合流点。(つまり現在は)水陸両方の交通の要衝でした。

明治以降、木材の集積地として、また川の腰を受けながら発展していった日原。往時の腰いは歴史史料や民俗芸能などを通じて知ることができます。



長崎資料の宝庫! 日本歴史民俗資料館は農具や漁具などの歴史資料が大量に保管されている日本有数の資料館です。

### **The Highways and River That Carried People and Resources**

The castle town used to be connected to Kyoto by the San'indo, and to territories outside the Tsuwano Domain by the Tsuwano Okusui Okan. Many people and resources were also transported by boats that plied the Takasugawa River. Makurase at Nichihara, where this road intersected the river, developed into an important transportation hub.



**The Castle Town, a Legacy from an Earlier Time**

Many people live in the former castle town, and it has developed both economically and culturally. Its shrines and temples still remain, however, and its festivals and other traditional arts survive as precious legacies. There are also many surviving buildings with traditional Japanese architecture that are still used as shops and residences.